

平成23年度図書館事業評価

事業名	主要事業	事業実績 () 数値は22年度	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）
1 図書館資料の収集と保存	・多様な資料要求に応える収集 ・蔵書構成計画の基づく計画的購入 ・資料保存計画の策定	・全体の蔵書構成を検討し、図書費5900万円を100%として、一般書62.7%・児童書20%・YA1.8%、・レファレンス8.5%・地域資料5.3%・HS資料1.7%の比率で資料を計画的に購入。 ・23年度資料購入冊数は36,619冊、全蔵書数に占める新刊書の割合は4.7%（34,298冊4.6%）	・予算配分に基づき適正に計画的な購入を行えた。課題であったYA資料についても、適正な予算執行を図ることができた。 ・全体の資料保存計画については、原案作成にとどまっており、継続審議とする。	B	・限られた予算を計画的に執行できたことは評価できる。 ・資料保存計画は、重要資料の廃棄が目につく現状の解決のためにも、抜本的、早急の立案に努めていただきたい。 ・厳しい財政状況のなか資料購入費の確保に努め、計画的購入によってバランスのよい蔵書構成が保たれている。蔵書に占める新刊書の割合についても5%台を目標に引き続き努力していただきたい。 ・児童書のノンフィクションが少ない。ロングセラー的な貸し出し頻度の高い絵本や子どもの本に傷みが多くあるので、買換えが必要である。 ・YA資料の予算の更なる充実を期待する。
2 施設・備品の整備	・書架耐震化工事（芝久保・谷戸・柳沢図書館）	・書架耐震化工事（芝久保・谷戸・柳沢図書館）を実施。	・安心安全な環境作りのための工事を実施できた。	A	・書架耐震化工事によって利用者は安心して来館することができ、安心安全な環境づくりに迅速に対応している図書館の姿勢を高く評価する。 ・一方で、老朽化の進んでいる中央図書館の施設整備について対策を講じていくことが今後の課題である。
3 図書館の情報システムの整備	・第二期図書館管理システムの管理運用 ・ICタグ資料管理システムの管理運用	・図書館管理システム遠隔修理作業と変更作業53回（16回） ・図書館電話サービス（CTIシステム）の定期点検2回（2回） ・ICタグ資料管理システムでは2回（4回） ・Webサーバネットワークセキュリティ診断1回（1回） ・自動貸出機稼働率62.9%（53.8%）	・各システムにおいてそれぞれセキュリティ上問題となる事項はなし。 ・中央図書館において予約棚システムを導入し、自動貸出機の利用促進に取り組んだ結果、全体での自動貸出機の稼働率は22年度より9.1ポイント上昇した。 ・特に中央図書館では月間約52%の自動貸出機の稼働率が予約棚システム導入後約91%に上昇した。	A	・中央図書館の予約棚システムは、きわめて低予算で構築し、高い利用実績を挙げたことを評価したい。引き続き他館の整備を進めるとともに、利用者の反応にも十分留意し、運用に還元していただきたい。 ・一方、利用者の反応についての評価が今後の課題。
4 利用者者と情報の安全管理	・利用者データの維持管理 ・危機管理 ・個人情報の保護	・利用者データに関する問題の発生0件（0件） ・危機管理研修回数延べ1回（6回） ・防災訓練延べ7回（3回） ・上級救命講習参加者12人 ・個人情報の保護に関する問題の発生件数0件（0件）	・利用者データ、個人情報の保護については、問題無く、情報の管理を行なうことができた。 ・危機管理に関する研修は他の研修をあわせて実施した地域館が1館。 ・防災訓練は公民館や入居する建物の管理組合、自治会との合同でいずれも実施。	A	・IT化が進む中、個人情報の流出は社会問題となっているが、個人情報の管理については、問題の発生件数が0件という結果に安心している。 ・日頃から注意を怠らず、トラブル発生を未然に抑えている点を評価するが、引き続き事故を起こさないよう、研修などを通じて職員全員の危機管理の意識を高めることが必要であり、意識を日常化することが大切である。 ・防災訓練時の様子を利用者に広報し、広く周知していくことで利用者が安心できる。
5 図書館資料の効率的な提供の推進	・正確で迅速な予約/リクエスト処理と提供 ・速やかな資料提供のための督促の効率化 ・在住する利用者のサービスの強化を図るため、未所蔵予約の受付制限を実施する。	・年間貸出冊数2,481,104冊（2,540,432冊） ・予約受付件数719,521件（717,165件）提供件数624,945件で提供率は86.9%（86.7%） 提供の内借用品数10,586件で借用率1.9%（1.4%） ・1人当たりの貸出冊数12.5冊/人（12.9冊/人） ・蔵書回転率2.9回(3.1回) ・長期未返却督促10,191件（9,591件）・ハガキ枚数3,603通（3,603通）・予約督促108,179件（104,930件）	・貸出冊数の減少については、震災による節電対策のため開館時間を短縮したことや7月から開始した未所蔵予約（リクエスト）の受付制限等が関係していると考えられる。 ・督促については、貸出冊数の減少に反し増加した。自動貸出機利用増で窓口での注意喚起への機会が減ったことも若干影響があると考える。図書館業務への負担のみならず、他の利用者へのサービスに影響するので、検証を要する事項である。	B	・利用者として予約への速やかな対応は評価できる一方、カウンターでの貸出・返却対応は、少なくなったとしても引き続き図書館の重要な機能として位置づける必要がある。窓口での応接の必要性も認識する事が肝要。人と人、顔と顔の対応が大切。 ・督促業務の効果的な手法について、他館の例なども研究し検討していくことが求められるが、目標は未返却率の減少であって督促行為そのものではないことにも留意する必要がある。 ・督促についてはメールでの通知を徹底しており、よく努力している。予約受付件数が増えているので、インターネット利用者は図書館に行く回数が減っていることも督促が改善されていない原因ではないか。新しいアイデアを期待する。
6 市民の読書活動の援助	・読書会等への支援 ・広報誌の発行 ・図書館ホームページの充実 ・(仮称)東伏見市民サービスプラザを活用した図書サービス（予約図書の貸出、返却等）を実施する。	・団体貸出の冊数56,145冊（56,100冊） ・「図書館だより」年4回発行、「広報西東京」掲載回数定例12回、不定期28回(不定期10回) ・「西東京の教育」掲載4回(2回) ・ホームページトップページへのアクセス1,282,729回（1,289,582回） ・資料検索画面へのアクセス数826,766回（802,817回）、iモードアクセス回数120,900回（111,709回） ・ホームページ更新71回(74回) ・東伏見ふれあいプラザ貸出件数3,055件	・団体貸出の利用は安定した利用状況になっている。 ・図書館情報を「広報西東京」「西東京市の教育」に掲載する回数を増やし、講演会等の集客に効果があった。 ・ホームページについては、トップページのアクセス回数は前年度より減少したが、資料検索画面へのアクセスは増加している。ブックマークなどによりトップページ以外の目的のサイトに直接アクセスするという利用が増えたと考えられる。 ・震災後の3月から計画停電に関連したお知らせを行い回数が増えている。新しい情報の更新を迅速に行い市民に提供した。	B	・団体貸出は利用しやすい形ができている。また、利用時の案内も問題が発見される度に改善されてきたので、わかりやすい。 ・図書館情報が『広報西東京』で掲載回数が増え、また、目立つようにスペースもとられており、市民に対して積極的に広報活動を行い広く市民に周知されていることは評価できる。また、HPの利用の増加は時代の反映として、資料検索や予約など利用者の利便性に大きく寄与している。今後も大いに活用してもらいたい。 ・計画停電についても迅速に対応できたことを評価したい。 ・図書館の様々な利用方法がよくわかるような、イラスト入りのパンフ作成・配布や「図書館利用ツアー」などを実施したらどうか。
7 成人サービスの推進	・蔵書構成のバランスに配慮した資料収集 ・成人対象の朗読会、講演会の開催 ・世代別、対象別サービスの調査・研究	・一般図書購入冊数25,465冊・蔵書冊数470,012冊・購入率5.42%（24,233冊・461,766冊・5.25%） ・朗読会開催回数2回・参加者数267人（5回・256人） ・除籍冊数30,115冊（全体）(26,713冊) ・講演会開催回数2回・参加者数77人（1回・61人・第2回は震災により中止）	・蔵書更新については購入冊数・除籍冊数ともに増加し、購入率は上昇した。 ・西東京市誕生十周年記念行事への取り組みは、広報の強化や参加ボランティアの協力により満席となり、アンケート結果では高い評価であった。	B	・蔵書構成のバランスを考慮しつつ更新が実施されていることは評価できる。 ・講演会等催し物も盛況でよかった。今後、図書館を利用しない層に向けた催し物等を考慮していただきたい。

事業名	主要事業	事業実績 () 数値は22年度	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）
7-1 一般図書サービスの推進	・利用しやすい書架づくり ・年間計画の作成、計画に基づく選書・保存等 ・成人向けパンフレットの発行 ・同一テーマのよる全館統一資料展示 ・原爆小文庫のあり方について検討を進める。	・出版傾向及び利用状況から出版から5年を経たものを中心に開架書架の除架処理を行なった。 ・今月の本棚発行回数12回（12回） ・統一展示展示冊数949冊（650冊）・貸出冊数2,166冊（687冊）・貸出回転率2.28回（1.06回） ・原爆小文庫に関して貴重資料の保存方法については未検討。	・書架及び書庫の収容量不足が継続した課題であり、施設の適正配置の検討の中で検討していく。 ・統一展示については、前年度の反省から検討を重ねた上で展示テーマを決定した結果、回転率が向上した。展示資料の見せ方についても研究を行い、さらなる利用の促進を図りたい。 ・原爆小文庫に関しては利用促進策の検討とともに、初期の寄贈分に多く含まれる戦後期の資料群について酸性紙資料の保存などの対応策の検討が必要である。	B	・書庫容量については、図書館だけの責任ではなく、市の基本計画の問題でもある。 ・展示等及び原爆小文庫のコレクション維持に今後も期待する。 ・施設の適正配置の検討はどのように実施されその成果はどうか、検討の経過や効果をもっと広く周知していく必要がある。
7-2 視聴覚資料サービスの推進	・C Dの計画的収集・提供 ・寄贈映像資料の提供 ・閉架書架に保存するC Dの要件にかかる検討	・新規購入C Dのタイトル数180タイトル ・CDの貸出数は86,667件（94,225件） ・寄贈映像資料の提供は未実施。 ・閉架に保存するC Dの要件を決定	・発売年が古く、現在では購入が難しいC Dを閉架で保存する。 ・O P A Cでの検索に対応するため、音楽C Dについては原語データを入力し、落語・朗読C Dについても書誌の整備に努めた。	B	・C D等音響資料の書誌データの入力作業はなかなか困難なことである。したがって、作業の合理化を図るためには市販マークの購入も必要である。また、最近、年輩者の朗読テープ利用の人气が高まっているので考慮する必要がある。 ・将来的には武蔵野市立図書館のようにD V Dなどの鑑賞ができる環境づくりの整備が望ましい。
7-3 逐次刊行物サービスの推進	・自館書誌作成方法の整備 ・寄贈雑誌の収集にかかる検討	・自館書誌の作成方法について検討 ・寄贈雑誌のデータを整備 ・雑誌貸出冊数123,648冊（125,240冊）	・保存期限等の館別情報の整備を行い情報の共有化を図った。 ・ビジネス関係雑誌を中心に、自館書誌の巻号情報の詳細化に努め、利用の向上を図った。 ・保存期限の延長に伴い、保存書庫を整備した。	A	・一般蔵書は時流に流されない購入を行うので、時代を反映する雑誌はよく吟味したうえでタイトルの増加も必要。 ・雑誌を読んでいる人が多く利用者が図書館に足を運ぶ魅力の一つになっている。 ・各館の雑誌タイトルの絶対数が少ない。雑誌・新聞の保存期限の延長は評価できるが、雑誌によっては長期保存の必要な物もある。その点を含めて、今後、他市図書館との分担保存を積極的に行う事を期待する。
8 レファレンスサービスの推進	・市民の調査・研究活動の援助 ・参考資料の体系化 ・ビジネス支援サービスの充実 ・ホームページでの事例紹介 ・We bレファレンスの実施 ・利用者用インターネットの適正な運営 ・レファレンス協同データベース事業の参加と事例公開	・レファレンス資料購入冊数694冊（654冊）蔵書冊数24,657冊（24,798冊）・蔵書増加率0.99倍、蔵書新鮮度2.8%(2.6%) ・レファレンスカウント件数6,907件（8,336件） ・レファレンス記録数70件（110件） ・ホームページアクセス件数8,443件（10,142件） ・We bレファレンス受付件数23件（41件） ・利用者用インターネット機利用者数14,353人（14,368人）利用回数24,914回（23,504回） ・レファレンス協同データベース事業公開登録数37件（79件）、累計173件、アクセス数27,430件（31,292件）	・蔵書の3.4%を除籍する一方、『J I Sハンドブック』の買換えなど、蔵書の新鮮度の向上に努めた。 ・ホームページアクセス件数は高い数値にあるため、継続して事例の更新を行い公開していく。 ・We bレファレンスは、迅速で適切な回答に努めたが、今後も回答内容の向上に努める。 ・利用者用インターネット機の利用回数は増加している。特に利用の少なかった柳沢図書館の利用が増えている。	B	・自動予約棚が導入される図書館ではカウンターも小さくなり、適切で魅力的な表示をしてレファレンス機能のアピールを行う必要がある。 ・レファレンスブックの更新は評価できる。
9 児童サービスの推進	・計画的な資料収集 ・学校・公共施設・地域等との連携・環境整備 ・読書案内を作成し、読書意欲の増進に努める。 ・地域活動ボランティアの支援 ・おはなし会ボランティアの育成・受入れをはかる。 ・講演会・講座の開催 ・パンフレット・推薦図書の発行 ・読書活動の推進(おはなし会等)	・児童書購入冊数8,043冊（8,261冊）・蔵書冊数191,968冊（181,366冊）・購入率4.2%（4.6%） ・団体貸出利用者数402箇所(368箇所)・貸出数56,145冊（53,370冊） ・発行物「ドキドキわくわく1ねんせい号」「夏休み・すいせん図書（小学生向）（中学生向）」「はじめて-赤ちゃんにおくるえほん30冊」改訂版「先生向け図書館案内」各1回（1回）「ドキドキわくわく新しい本」年6回（6回）「で・あ・い-小学生の本のリスト-」「道しるべ-中学生の本のリスト-」各1回 ・講師派遣事業数13回（12回）・共催事業数39回（32回） ・おはなし会ボランティアフォローアップ研修の実施回数2回・参加人数9人・延べ16人 ・おはなし会の実施回数332回（288回）・実演者数 9団体・23人（8団体・23人） ・講演会・講座 開催回数 4回（5回）・参加者数94人（225人）	・記念事業を実施し人員的・時間的余裕が不足した結果、買換え等が十分できなかったことを反省し、今年度は各担当館だけでなく、担当不在館の蔵書管理についても体制をつくっていく。 ・団体貸出については、利用者数・貸出数ともに増加した。 ・「夏休みすいせん図書」の発行20周年を記念した本のリストを作成した。発行にあたり過去のリストの再編成を行い編集した。 ・講師派遣事業は、小学校のP T Aや読み聞かせサークル、児童センター等からの要望があり実施した。効果として保護者の読書への関心を高めることができた。 ・第2期おはなし会ボランティアのフォローアップ講座を実施した。また、第2期おはなし会ボランティアによる自主サークルができ、交流や学習体勢が整ってきた。 ・震災により中止となった紙芝居講座（全2回）を実施し、参加者の評価が高かった。	B	・第2期子ども読書活動推進計画策定の年に大規模な記念事業を市民との協働で実施出来た事は評価できる。計画実施の効果もあり、図書館の子ども利用、保護者の利用が増加している。それに十分対応できる人員配置の検討を望む。 ・団体貸出の利用者数・貸出数の増加、夏休みの推せん図書及び赤ちゃん、教師向けの案内発行は大いに評価できる。 ・図書館の「おはなしひろば」事業は、対象の3～5歳児の参加が増えるように、各館の利用者層に応じた工夫を期待する。今後も「おはなし会ボランティア」養成の継続とともに、おはなしひろばの一層の広報や出前おはなし会など、検討していただきたい。 ・「小学生の本リスト」や「中学生の本リスト」の作成によって子どもたちの本に対する関心がさらに深まることが期待される。 ・専門家による講師派遣事業はとても有意義で好評であり、紙芝居講座など積極的に活動を行っている。
10 ヤングアダルトサービスの推進	・計画的な資料収集 ・Y A世代との共同編集の実施 ・職場体験の受け入れ	・年間受入資料数 1,066冊（1,114冊） ・共同編集会議事前説明会 2回 ・共同編集会議 6回（5回） 公募、選定した共同編集者3名と編集。 ・「C A T C H」発行回数 3回（3回） ・職場体験受入校数 10校（11校）受入人数 115人（79人）延べ日数 34日（56日）	・昨年度、資料の購入が適正に執行できなかったのを反省し、計画的な購入に努めた。 ・準備を進めてきたYA世代との共同編集を初めて実施し、「C A T C H」の特集ページを3名の共同編集者がアイデアを出し記事を作成した。普段接することの少ない年代と交流を持つことで、YA世代の文化を知る機会を得て、「C A T C H」の編集内容や資料選定にも反映することができた。	A	・Y A向け蔵書では、計画的に資料購入ができたことは評価できるが、ノンフィクションが不足気味であり、学校との連携の意味でも力を入れてほしい。 ・『CATCH』編集に3名の共同編集者が参加した事は大いに評価できる。定着させていくことで今後のYAサービスへの反映に期待する。

事業名	主要事業	事業実績 () 数値は22年度	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）
11 地域・行政資料サービスの推進	- 資料の収集、整理、保存、提供 - 関係機関との協力 - 市民情報の収集 「田無のむかし話 その3」の再版 - 図書館ホームページ地域・行政資料コーナーの更新と情報発信 - 地域の人材を活かした講座、講演会等の実施 「なつかしの田無・保谷平成19～21年度作成写真パネル図録」の販売とパネル提供	- 年間受入れ資料数3,361冊(3,583冊)、蔵書冊数86,890冊(84,298冊) - 西東京市関係新聞記事年間作成データ4,767件(5,418件)、作成データ総数77,632件(72,865件) - ホームページ新聞記事索引アクセス件数2,928件/月平均244件(3,638件/303.2件) - 地域・行政資料入室者数1,441人(1,516人) - レファレンス受付回答件数1,447件(1,659人)、庁内刊行物の移管資料数1,211件(1,188件) - 庁内レファレンス受付・回答件数27件(54件) 「田無のむかし話その3」第4版300冊を作成し情報公開コーナーで販売した。 - 市内在住者を講師に大人のための講座を実施した。「幕末江戸の災害」講師：吉田豊氏 入場者：43人、満足度84.2% 「災害と民俗学」講師：石井正己氏 入場者：59人、満足度89.6% 「寺子屋式古文書手習い」（連続5回）講師：吉田豊氏、受講者：24人 満足度84.2% 「なつかしの田無・保谷平成19～21年度作成写真パネル図録」の販売数（図書館では平成23年12月で終了483冊。情報公開コーナーでは平成23年3月～平成24年3月で77冊） - 写真パネル貸出件数 6 団体104点（ 6 団体127点）	- 資料の収集・整理・保存・提供 - 行政資料などの副本を迅速に各館コーナーに整備し、市民が身近な図書館で新しい情報を入手できるよう努めた。また、地域館から資料室に寄せられるレファレンスは、その地域館所蔵資料を紹介して解決するなど提供の変化もあった。地域・行政資料室のみが所蔵している資料の特色やサービスを、ホームページから情報発信するなど、利用を促進したい。 - 関連機関等との協力 - 市内各学校や、庁内各部課への庁内刊行物移管依頼により移管資料数は順調に増え、図書館は市民への情報提供窓口との認識も徐々にできている。「なつかしの田無・保谷平成19～21年度作成写真パネル図録」は、市民の関心も高く図書館では約500部を販売したが、図書館が作成した資料を情報公開コーナーで販売することで更に庁内との相互協力関係を築くことができる。引き続き、写真パネルの提供と併せてPRを行っていく。 - 地域の人材を活かした講座、講演会では、震災から1年を迎え異なる視点から災害を考えた。また、寺子屋式古文書入門講座（5回連続）は初めての企画であったが、講座終了後、受講生の自主グループが発足し活動を続けている。図書館が所有する歴史的資料の解読など、図書館サービスとの連携も図っていきたい。平成24年度も同講座実施の予定。	A	- 地域の人材を活かした講座、講演会も活発におこなわれ、市民の評価も高く、関係機関との連携も評価できる。今後も、多様な講座・講演等を期待する。また、「なつかしの田無・保谷：写真図録」の作成・販売等の活動は大いに評価できるものである。庁舎内はもとより市内の関連機関との連携が進んでいることは評価したい。 - 西東京市に関する資料は図書館が集めていることをさらに周知徹底し、協力を得られるよう努力していただきたい。 - 中央館1階の地域資料コーナー、地域館の地域資料、地域行政資料室三者の役割分担を明確にされたい。 - 西東京市（旧田無・保谷）及び近隣地域に関する資料、庁内刊行物を含む西東京市の行政資料の収集保存は、公立図書館の最も重要な機能のひとつなので、引き続き活動を強化していただきたい。
12 ハンディキャップサービスの推進	「広報西東京」等、市の定期刊行物の情報提供 - 対面朗読サービスの充実 - デিজリー資料の作製 - 宅配サービスの拡充について検討	「広報西東京」などの市発行広報物の提供延べ人数が拡大2,673人(2,454人)した。 - 広報テープ中に占める広報デিজリーでの提供率が、5.0%に達した。 - 対面朗読利用者数が増加した8人（3人） - デিজリー所蔵数（購入含む）が200点を突破した。また、デিজリー図書の相互協力（貸出）が拡大した89点（19点）。 - 宅配サービスについての晴眼者対象アンケートを実施し、過半数の賛同を得た。	「広報西東京」などの市発行広報物の提供延べ人数の拡大に伴い、広報物での初めてのデিজリー図書での提供を開始した結果、全延べ利用者数の5%にあたる134人への提供が実現できた。 - 対面朗読利用者の高齢化により利用回数が減少していたが、PRに努めた結果、利用者が増加した。提供場所も拡大5（2）館した。 - デিজリー図書の製作が軌道に乗りつつあり、製作数の増加に伴い、対自治体貸出数も増加した。 - デিজリー機器の整備と編集者の増員により製作環境が向上した。一方、リクエスト受付から製作・提供までの時間短縮が課題である。 - 宅配サービスについての晴眼者対象アンケートにより、過半数の賛同を得た。昨年度実施した視覚障害者1、2級対象者240人へのハンディキャップサービス郵送アンケート（障害福祉課協力）と併せ、24年度に宅配サービス実施計画の検討を行う。	A	- 人員削減の中、ハンディキャップサービス事業の実績を伸ばしている事は評価できる。しかし、この項目のタイトルを「利用に障害のある市民」と変えて、外国籍の市民利用についても言及してほしい。 - デিজリーによる図書の提供が始められた事は評価できる。今後、利用者増を図る事が重要である。対面朗読の利用の増加を期待する。 「広報西東京」は全戸に配布されるので、ハンディキャップをもっている人たちにとっては必要不可欠のサービスといえる。 - 広報物での初めてのデিজリー図書の提供を評価する。 - 宅配サービスについては利用者の賛同を得ているということなので引き続き継続することを期待する。
13 子育て支援事業の推進	健康課保健係との連携及び事業の継続	3・4ヶ月時健康診査の実施回数 28回（30回） 3・4ヶ月時健康診査総受診者数 1,698人（1,708人） 絵本と子育て事業（絵本バッグの配布・絵本の読み聞かせの実施・図書館やおはなし会のPRなど）実施者 1,694人（1,679人） 絵本バッグ配布率 99%（ 98%） - 実施回数の減少（30回→28回）により、1回あたりの参加者数は増加した。平均参加人数 60.5人（56.0人） - 担当職員延べ人数 29人（33人） 読み聞かせ講師参加延べ人数 26人 「はじめまして - 赤ちゃんにおくる絵本30冊 - 」の内容を改訂した。	- 人口の増加により対象者数が増加していく傾向にある。 - 受診者に対する配布数は、ほぼ目標を達成している。図書館利用につなげる工夫やPRが必要である。 - 兄弟で、すでに参加した人の反応が多く聞かれるようになり、継続していくことが重要である。 - 市内で子どもの読書に関する活動をしているボランティアグループと協力し掲載資料の選定にあたった。今後も定期的に実施していく。	A	3・4ヶ月児健診受診者への絵本バッグの配布数が、目標を達成していることは評価できる。 3・4ヶ月児健診で図書館と出会っても、すぐに図書館利用者に結び付くわけではないので、読書への誘いを実現するためには3歳児健診時の事業の検討を期待する。
14 子ども読書活動推進計画に基づく事業実施	第2期西東京市子ども読書活動推進計画策定記念事業「子どもの本まつり～子どもと本をつなぐために～」の実施	「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」周知のための記念事業「子どもの本まつり～子どもと本をつなぐために～」を12月3日（土）に実施した。 協力者 実行委員会委員6人 スタッフ54人、実行委員会開催回数 準備会2回、実行委員会9回、スタッフ全体会 1回。 参加人数 子どもの広場・乳児64人、幼児23人、大人95人、講演会・大人120人（合計182人） 「子どもの本まつり～子どもと本をつなぐために～」記録集を作成。 「目でみる西東京市子ども読書活動推進計画」パネル展を実施。（3月28日から30日まで）	「子どもの本まつり～子どもと本をつなぐために～」を実施するにあたり、市民ボランティア・市関係機関が参加し開催した意義は大きい。また、スタッフ・参加者も多く集まり、今回の行事の実施により得られた関係性をよりよく築いていくために、努力していく必要がある。 - 記録集を作成したことにより、当日参加できなかった方に対しても周知ができた。 「目でみる西東京市子ども読書活動推進計画」パネル展を実施したが、より多くの方に西東京市の子ども読書活動の現状を知ってもらう機会となった。	A	- 初めての試みとしては成功で、成果もあった。市民との協働はきめ細かい配慮が必要なので、経験を活かしたこれからの発展に期待したい。 - 講演会の参加者も多く市民の関心の高さがうかがえる。 「子どもの本まつり～子どもと本をつなぐために～」記録集の発行を大いに評価する。記録集の活用に期待したい。

事業名	主要事業	事業実績 () 数値は22年度	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）
15 類縁・関係機関との連携	・多摩六都及び四市行政連絡協議会協力事業の推進 ・他図書館及び公共施設との協力事業の推進 ・武蔵野大学協力事業の推進	・多摩六都図書館担当国会議、全15回開催。「多摩六都図書館ニュース」年4回発行。 ・インターンシップ生の受入れ 5人。 ・武蔵野大学図書館利用カードの貸出回数129回（104回）。 ・図書館講座講師派遣1回。	・近隣の公共図書館との連携による協力体制および武蔵野大学等との連携は、今まで同様に行った。	B	・協力体制の範囲が限定的である。資料の分担保存、職員の相互研修、共同研究等多様な連携も模索してほしい。 ・武蔵野大学図書館の利用については、広報を強化してほしい。
16 職員研修	・課内研修の計画的な実施 ・外部研修への参加等による資質の向上	・4月新人嘱託員研修、特別整理期間内に職員及び嘱託員研修を実施。 ・部門別研修については、児童サービス担当及び障がい者サービス担当が研修計画を作成し実施。 ・外部研修については、都立図書館主催研修を中心に参加。多摩地域で行われた全国図書館大会及び多摩地区図書館大会に参加。	・課内研修については、児童及び障がい者サービスの研修は継続的に実施された。レファレンス、地域・行政資料は外部研修の参加を中心として実施した。	C	・時代の変化に伴い成長する図書館員として研修の強化を期待したい。 ・外部研修に依存するだけでなく、市図書館として独自の研修計画を持ち実施して欲しい。
17 図書館サービスの評価	・事業評価の実施及び公開 ・利用者満足度調査の実施	・公開時期10月を予定	・現在の形式の事業評価は3回目となることから、評価内容の再構築が必要である。	C	・評価の内容が細かすぎる。もうひとつ上位レベルのカテゴリー（業務単位など）にまとめるなど、評価項目を10個以内に抑えるべきである。真摯に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。

評価…… A 事業計画にある施策事業を概ね達成した。
 B 事業計画にある施策事業を一部達成し更なる充実を図っていく。
 C 事業計画にある施策事業を継続し実施していく。
 D 事業計画にある施策事業の一部は進展が見られるが更なる充実を図っていく。
 E 事業計画にある施策事業の進展が見られない。